

清 田 区

第2章

概 況

清田区は市の南東部に位置し、北は東北通で白石区と厚別区、西は吉田川、羊ヶ丘、山部川を境界に豊平区、南西部は南区、南は丘陵地で恵庭市、東は大曲川で北広島市と接しています。区域のおよそ3分の2は、緑豊かな丘陵地と山林に覆われ、南北に縦断するあしりべつ川（厚別川）、山部川などの河川や白旗山を有する市最大の市有林があり、身近に雄大な自然を感じることができます。

宅地開発が進む中でも、自然を生かした街並みが形成されており、比較的若い世代が多く居住しています。

区内には梅の名所として知られる「平岡公園」、国際スキー連盟公認の距離競技場とナイター設備を完備した2面の天然芝サッカーグラウンドを有し、2017 冬季アジア札幌大会の会場の一つとなる「白旗山競技場」、市民の憩いの森として親しまれている「札幌ふれあいの森」、市内最大の公園式墓地「里塚霊園」など豊かな自然と調和した全市的な公園、施設が整備されています。

歴 史

明治6年に月寒開拓団の一員であった長岡重治が“あしりべつ”（清田区の中心部）へ居住したのが最初の入植といわれています。その後個別の開拓という状態が続き、明治20年代に本格的な開拓が始まりました。昭和30年頃までは水田開発が進み、厚別川の低地帯は「清田」の地名の由来のように美しく清らかな水田が広がり、小高い丘は一面がリンゴ畑の農村地帯でした。

昭和36年の豊平町と札幌市の合併を契機に次々と大型団地が造成され、市街地も拡大していきました。

その後も、東部地域開発や大型民間開発が進められ、加速度的に人口が増加したことから、平成9年11月に豊平区から分区して「清田区」が誕生しました。

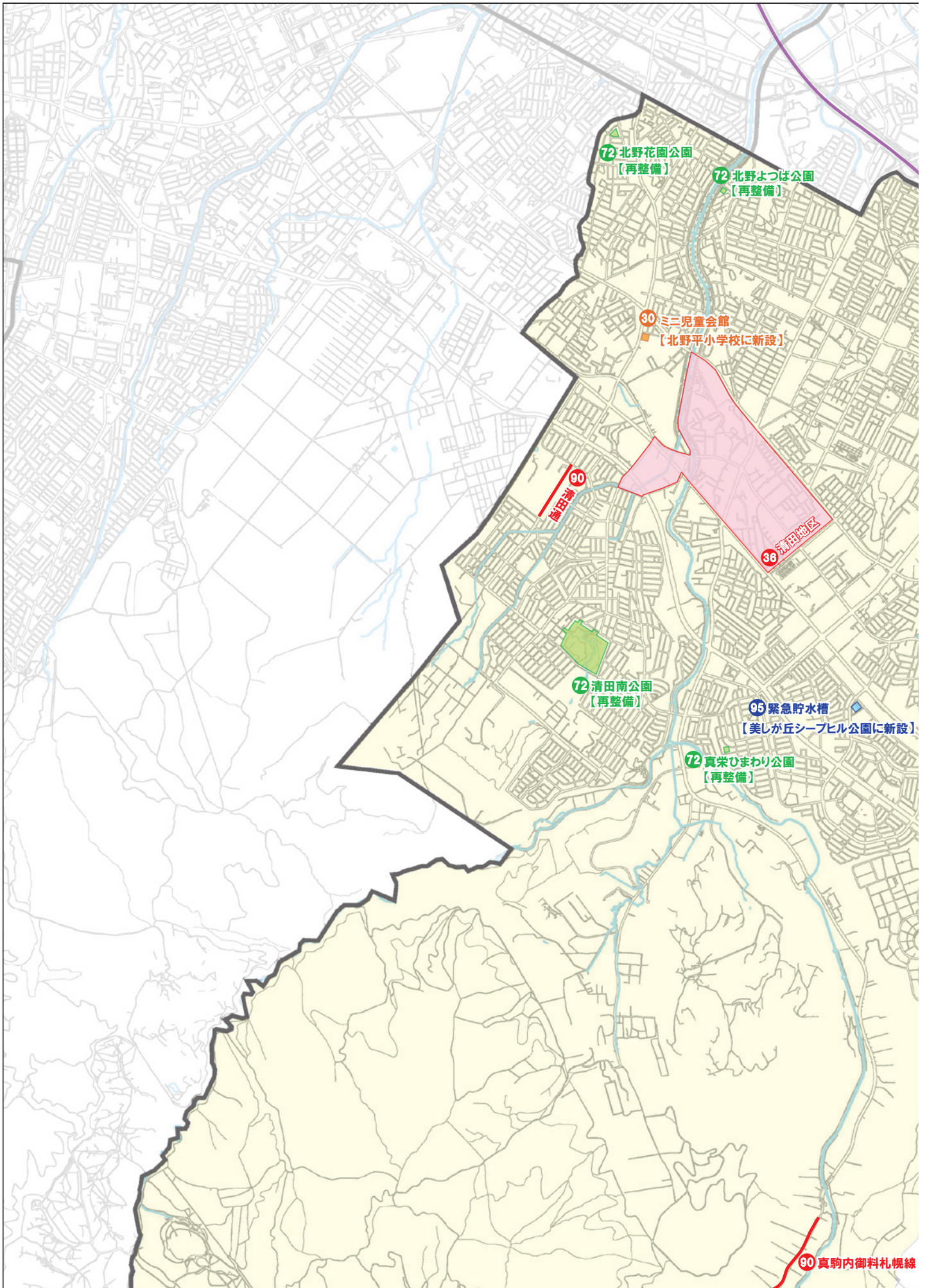
まちづくりの取組

清田区は、3つのシンボル（白旗山、あしりべつ川、平岡梅林）に代表される、豊かな自然環境に恵まれた閑静な住宅街という地域特性を生かして、誰もが安心して暮らせる地域づくりのため「みどり豊かで、地域のふれあいあふれ、誰もがやすらぎを感じるまち」を目指すべき将来像としています。

そのための具体的な事業として、地域の代表者による「きよたまちづくり区民会議」での議論を踏まえ、自然環境の保全・活用、「きよたスイーツ」「きよたマルシェ（にぎわい収穫市）」などによる魅力発信や、人と人とがつながりを持てるイベントの実施、地域の防災力向上に向けた活動支援、保健福祉の充実などに積極的に取り組んでいます。

また、区のマスコットキャラクター「きよっち」は、区や地域で開催される様々な行事に、テーマソングとともに登場するなど、広く区民に親しまれています。

| 事業名 | 事業内容・整備内容 | ページ |
|----------------------|--|-----|
| 認知症家族の孤立防止事業 | 認知症の方を介護する家族や地域の方々を対象に、認知症への理解を深める講演会や交流会を開催し、家族の負担感を和らげ、孤立しない地域づくりを進めます。 | 18 |
| 地区ウォーキングによる健康づくり推進事業 | 地域のボランティアグループを中心に実施されている「地区ウォーキング」の運営を支援し、ウォーキング人口を増やすとともに、地域で健康づくり活動を広める担い手を増やします。 | 28 |
| 放課後児童クラブの過密化解消事業 | ミニ児童会館を新設（北野平小） | 30 |
| 安全・安心な道路環境の整備事業 | 歩道のバリアフリー化（清田地区） 事故危険箇所対策（羊ヶ丘線ほか1カ所） | 36 |
| 花とみどりのネットワーク事業 | ガーデニングを清田区の地域資源として、区民一人ひとりが庭造りなどに取り組む機運を醸成し、花やみどりとふれあうきっかけの場の創出を図るとともに、「（仮称）清田区花サポーター」による区民ネットワークの構築を進めます。 | 39 |
| 「きよたマルシェ」実施事業 | 区民協議会 ⁴⁴ である「きよたまちづくり区民会議」や地元農家、企業、関係団体と連携し、清田区の農産物のPR、地産地消・食育の推進などを目的とした「きよたマルシェ」を開催します。 | 41 |
| 地域と創る公園機能再編・再整備事業 | 身近な公園の再整備（地区公園 1カ所、街区公園 3カ所） | 72 |
| 骨格道路網等整備事業 | 清田通ほか1路線 | 90 |
| 緊急貯水槽・緊急遮断弁整備事業 | 緊急貯水槽の新設（美しが丘シープヒル公園内） | 95 |



概 況

南区は、市の南西部に位置し、小樽市、千歳市、恵庭市、伊達市、京極町、喜茂別町そして赤井川村の4市2町1村と接しています。面積は657.48km²で全市域の約60%を占め、南北に37.6km、東西に33.2kmの広がりをもっています。区内には無意根山や空沼岳など標高1,000mを越える山々がそびえ立ち、真駒内川をはじめとした大小100余りの河川が豊平川へと注いでいます。市街地は平坦な北東部とこれらの河川に沿って形成されています。

豊かな自然に恵まれた区内には、滝野すずらん丘陵公園や真駒内公園など大規模な公園・緑地や市民の水がめである豊平峡ダム、定山溪ダムがあるほか、札幌国際スキー場など多くの憩いの場が整備されています。

農業は果樹栽培が盛んで、観光果樹園は市民の人気を集めています。また、約150年の歴史のある定山溪温泉には、市内外から毎年多くの観光客が訪れています。

このほかPMF（パシフィック・ミュージック・フェスティバル）が開催される札幌芸術の森や軟石採掘場跡を造成した石山緑地など、新しい芸術文化の発信地となっています。

歴 史

現在の南区の礎が築かれたのは、明治2年に、札幌に開拓使が置かれて町の建設が始められる以前に、美山定山が温泉を確認したことが始まりと言われていています。その後、本願寺街道（現国道230号）の開削、簾舞通行屋（宿泊・休憩所）の設置、八垂別（現藻岩）での硬石・穴の沢（現石山）での軟石の発見などがあり、大正7年には、定山溪鉄道が開通し、鉱石や木材の運搬、定山溪への行楽客の運送に大きな役割を果たしました。

さらに戦後は、真駒内の種畜場が米軍に接收され、その返還とともに、真駒内団地の造成が開始されました。昭和47年には、真駒内地区が主会場となり、第11回冬季オリンピックが開催され、会場アクセスとして前年に地下鉄南北線が開通するなど、都市基盤¹の整備が急速に進み、現在の南区の街並みが形成されました。

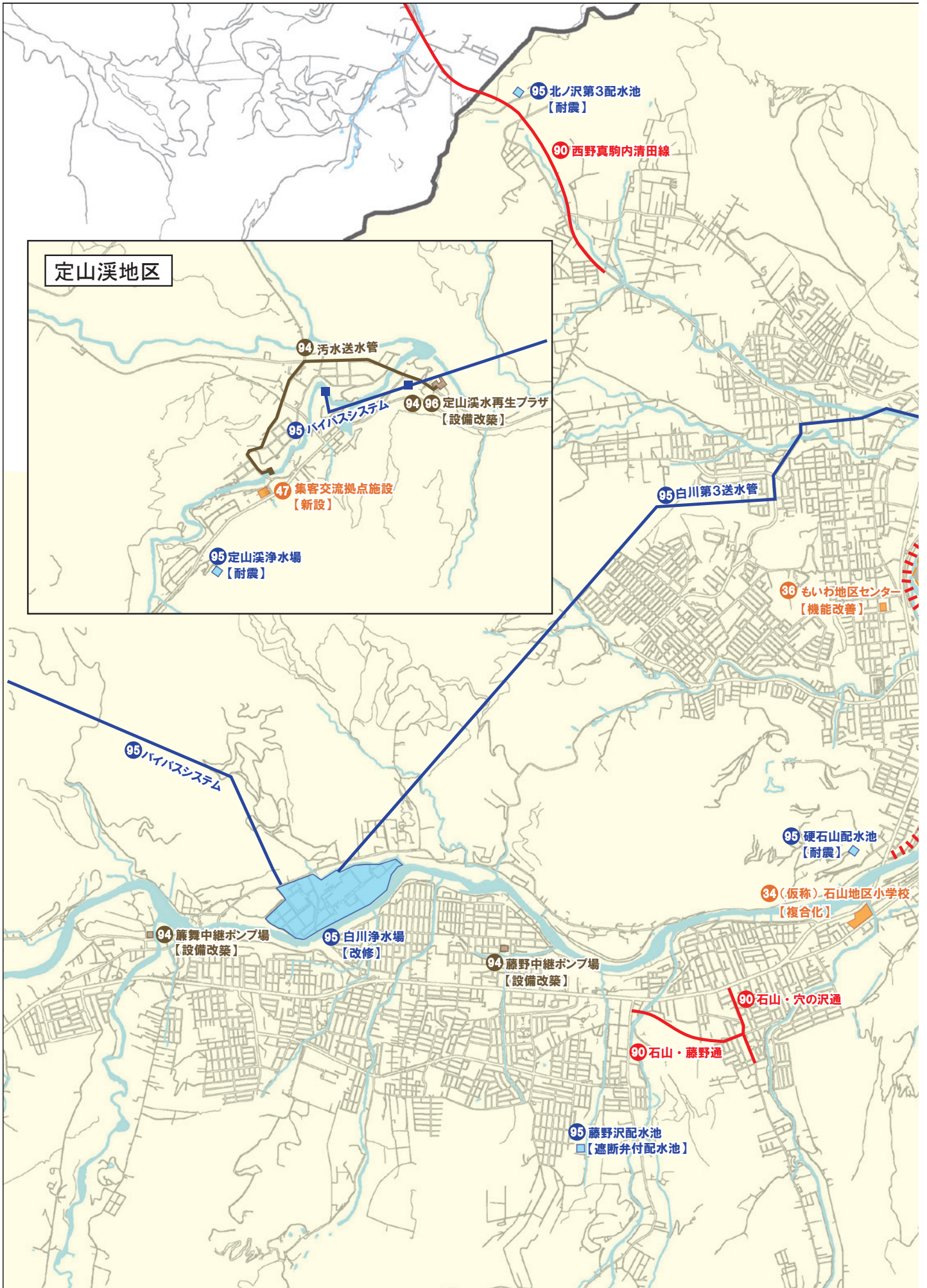
まちづくりの取組

南区では、自然災害の発生への備えや、地域・学校との協働による雪対策、また健康寿命の延伸に向けた取組など、地域住民が安心して暮らせるまちづくりを進めています。

また、まちづくりセンターを拠点に、地域住民が主体的に取り組むまちづくり活動を支援するとともに、まちづくりセンターの地域自主運営の取組を支援しています。

さらに、南区の自然や観光・文化資源を活かし、「住んでよし、訪れてよし」の都市空間づくりに取り組むシーニックバイウェイ活動への支援や、区内にキャンパスを有する大学生などの若い力を活用した地域活性化の取組への支援など、魅力と活力にあふれたまちづくりを進めています。

| 事業名 | 事業内容・整備内容 | ページ |
|---------------------------|--|-----|
| 健康寿命延伸事業 | 健康寿命の延伸を図るため、健康阻害要因となっている病気などの分析を進めるとともに、健康や福祉に関するイベントの実施を通じて、分析結果や具体的な予防法などを地域住民に広く周知します。 | 21 |
| 市立特別支援学校の教育内容等の拡充 | 中学部設置に伴う施設整備（豊成養護学校） | 28 |
| （仮称）南部高等支援学校における就労支援体制の拡充 | 旧真駒内小学校敷地に新設（（仮称）南部高等支援学校） | 28 |
| 新型児童会館整備事業 | 学校改築に合わせ、新型児童会館を整備（2校） | 30 |
| 学校施設改築事業 | 老朽化した学校施設の改築（澄川小、真駒内曙中） | 32 |
| 南区若い力を活かしたまちづくり事業 | 学生と地域が連携し、真駒内駅を始めとする公共施設などのデザイン装飾化を行うとともに、小学生に地域の魅力を知ってもらうため、地域住民を講師とした体験事業を実施します。 | 34 |
| 学校規模適正化対象地域における学校施設整備等事業 | 学校規模適正化の検討地域における学校施設整備（（仮称）石山地区小） | 34 |
| 不登校対策事業 | 相談指導教室を澄川小学校からまこまるに移転 | 34 |
| 地区センターバリアフリー化事業 | エレベーターの設置（もいわ地区センター） | 36 |
| 安全・安心な道路環境の整備事業 | 歩道のバリアフリー化（澄川地区ほか1地区） | 36 |
| 図書館バリアフリー化事業 | 澄川図書館のトイレを洋式化 | 36 |
| 小学校併設地域交流施設設置事業 | 小学校併設地域交流施設の設置（1校） まちづくりセンターのリニューアル改修（藻岩下） | 37 |
| 札幌市保養センター駒岡屋外施設活用検討事業 | 屋内パークゴルフ場・熱帯植物館の跡地等の活用検討 | 39 |
| 出会いの場創出事業 | 独身の方を対象に出会いの場の創出及び地域の活性化を目的としたイベントを南区で実施します。 | 39 |
| 定山溪地区魅力アップ事業 | 集客交流拠点施設の整備 | 47 |
| 南道央圏連携事業 | 新幹線延伸を見据え、南区に近接する羊蹄山麓・西胆振地区の市町村で構成する連携ネットワークに参加し、食と観光の振興や防災、人口減少対策などの課題への広域的な対応を図ります。 | 48 |
| 豊平川通南北延伸検討調査事業 | 豊平川通南伸の検討 | 58 |
| 真駒内駅前地区まちづくり推進事業 | （仮称）真駒内駅前地区まちづくり計画の策定 | 69 |
| 歩行者と自転車の共存する空間の創出事業 | 駐輪場の整備（澄川駅駐輪場） | 70 |
| 交通局建築施設耐震改修事業 | 南北線高架駅の耐震改修（澄川駅、自衛隊前駅、真駒内駅） 南車両基地の耐震改修 | 71 |
| 地域と創る公園機能再編・再整備事業 | 身近な公園の再整備（近隣公園 1カ所、街区公園 2カ所） | 72 |
| 駒岡清掃工場更新事業 | 駒岡清掃工場の建替 | 79 |
| 安全・安心な緑道整備事業 | 利用者の安全・安心や利便性の向上、快適な住環境の整備などを目指し、老朽化や歩行環境の悪化など多くの課題を抱える真駒内地区緑道などの再整備を行います。 | 87 |
| 骨格道路網等整備事業 | 西野真駒内清田線（こばやし峠）ほか2路線 | 90 |
| 下水道施設再構築事業 | 定山溪水再生プラザほか3施設の設備改築 | 94 |
| 下水道施設災害対策事業 | 汚水送水管（代替ルート）の整備 | 94 |
| 豊平川水道水源水質保全事業 | 導水管（豊平バイパスシステム）の整備 | 95 |
| 緊急貯水槽・緊急遮断弁整備事業 | 配水池に緊急遮断弁を設置（藤野沢配水池、石山東配水池） | 95 |
| 白川浄水場改修事業 | 新浄水場の建設 | 95 |
| 水道施設耐震化事業 | 定山溪浄水場ほか4施設の耐震化 | 95 |
| 白川第3送水管新設事業 | 白川第3送水管を新設し、第1・第2送水管と多重化 | 95 |
| 下水道整備・水質改善事業 | 放流きょ変更（定山溪水再生プラザ） | 96 |





南区

概況

| 項目 | 全市 | 南区 | 全市に占める割合(%) | 調査時点 |
|----|----|----|-------------|------|
|----|----|----|-------------|------|

区域面積

| | | | | |
|----------------------------|----------|--------|------|----------|
| 行政区域面積 (km ²) | 1,121.26 | 657.48 | 58.6 | H26.10.1 |
| 市街化区域面積 (km ²) | 250.17 | 23.99 | 9.6 | H26.10.1 |

人口・世帯数

| | | | | |
|----------------------|-----------|---------|------|----------|
| 人口 (人) | 1,942,648 | 141,960 | 7.3 | H26.10.1 |
| 市街化区域内人口密度 (人/ha) | 75.5 | 58.6 | - | H22.10.1 |
| 世帯数 (世帯) | 932,974 | 63,357 | 6.8 | H26.10.1 |
| 住宅に住む一般世帯数 (世帯) | 879,156 | 61,306 | 7.0 | H22.10.1 |
| 持ち家 (世帯) | 425,249 | 39,411 | 9.3 | H22.10.1 |
| 民営の借家 (世帯) | 376,805 | 14,524 | 3.9 | H22.10.1 |
| 公営・都市再生機構・公社の借家 (世帯) | 38,314 | 4,219 | 11.0 | H22.10.1 |
| その他 (世帯) | 38,788 | 3,152 | 8.1 | H22.10.1 |

就業者数・事業所数

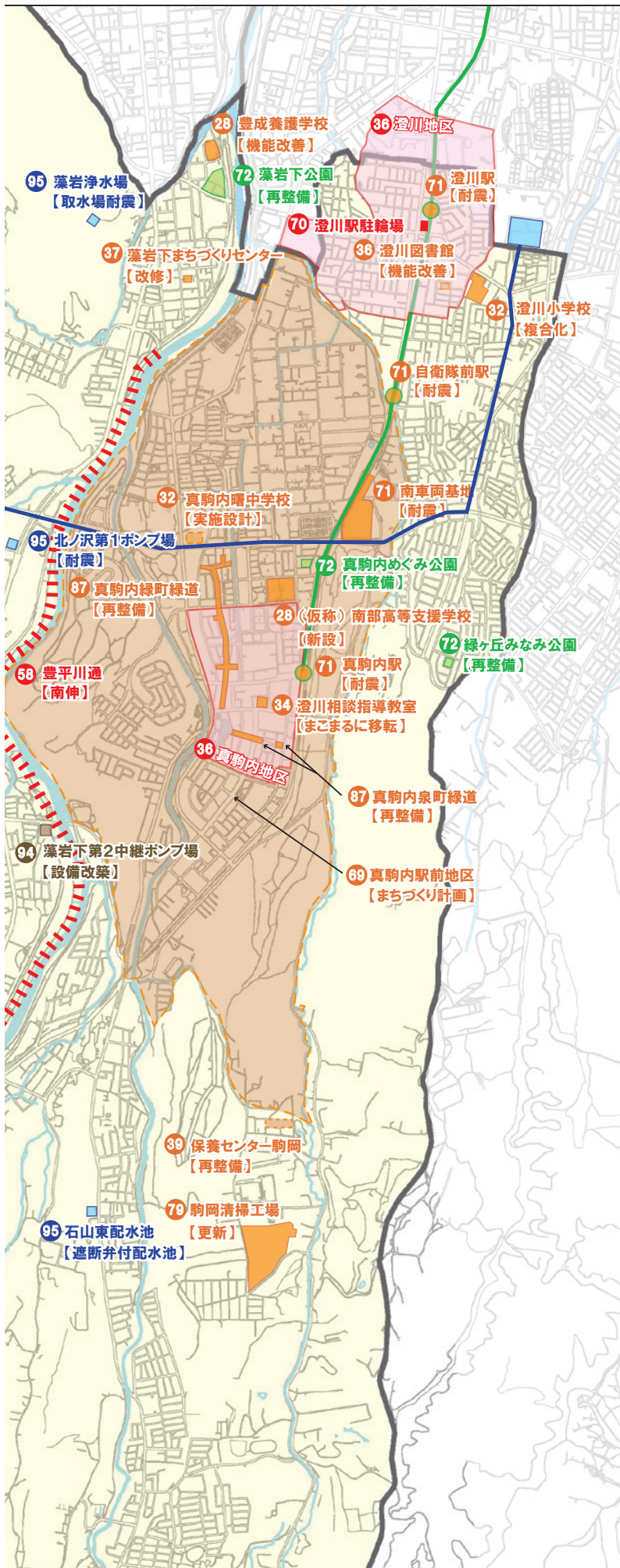
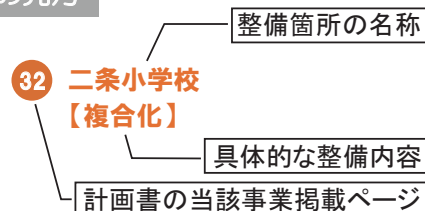
| | | | | |
|-----------|---------|--------|------|----------|
| 就業者数 (人) | 861,037 | 63,792 | 7.4 | H22.10.1 |
| 第1次産業 (人) | 3,534 | 474 | 13.4 | H22.10.1 |
| 第2次産業 (人) | 118,904 | 6,955 | 5.8 | H22.10.1 |
| 第3次産業 (人) | 658,853 | 50,950 | 7.7 | H22.10.1 |
| 分類不能 (人) | 79,746 | 5,413 | 6.8 | H22.10.1 |
| 事業所数 | 76,604 | 3,670 | 4.8 | H26.7.1 |
| 第1次産業 | 105 | 12 | 11.4 | H26.7.1 |
| 第2次産業 | 9,321 | 436 | 4.7 | H26.7.1 |
| 第3次産業 | 67,178 | 3,222 | 4.8 | H26.7.1 |

地図の凡例

- 道路(施設)整備
- 歩道バリアフリー整備
- 河川整備
- 下水道(施設)整備
- 公園整備
- 水道(施設)整備
- 施設整備

※点線は整備に関する検討事業です
検討の結果整備箇所は変更する可能性があります

地図の見方



概 況

西区は、市の西部に位置し、東側は中央区に、南西側は山岳地帯に沿って南区に、西側は手稲区に、そして北東側は新川と琴似川をはさんで北区に接しています。10区の中で南区に次いで2番目の広さがあり、区の中央部を流れる琴似発寒川の扇状地として発展しました。

区の北側、発寒地区には鉄工団地などを有し、札幌市産業の重要拠点の一つとして地場産業が根付いています。区の中央、琴似地区は古くから札幌の西の拠点として、区役所などの公共施設や様々な商業施設が集まり、発展を遂げています。また、宮の沢地区に生涯学習総合センター（ちえりあ）が、八軒地区に西健康づくりセンターや、まちづくり情報交流センターが整備され、多くの市民の活動の場として利用されています。

歴 史

西区は、左股川と琴似発寒川を境に、東側一帯と西側の発寒地区は旧琴似町地域、西側の残りの一帯は旧手稲町地域です。旧琴似町地域の開拓は、屯田兵の手によって行われました。明治8年、北海道で最初の屯田兵198戸が琴似地区に入植。翌9年には発寒へも入植して、開拓と北方警備の任に当たりました。一方、旧手稲町地域の開拓は、民間人の手により行われました。明治5年、旧仙台藩片倉家臣47戸が宮の沢地区（現在の西町）へ入植してから、開拓も本格化。その後、西野、平和、福井地区などに広島県人や福井県人が入植し、現在一部の地名にその名残がありません。

琴似町は昭和30年に、手稲町は42年にそれぞれ札幌市と合併。人口の急増に伴い、平成元年11月6日に、それまでの西区を分区して手稲区と現在の西区が誕生しました。

まちづくりの取組

西区では「西区実施プラン」を策定し、「地域の豊かな自然環境や文化芸術を活かしたまちづくり」「安全・安心に暮らせるまちづくり」「区民から親しまれ信頼される区役所を目指して、市民感覚を大切に、市民の立場に立って仕事を進めること」を区政運営の方針として、区民が主役のまちづくりを進めています。

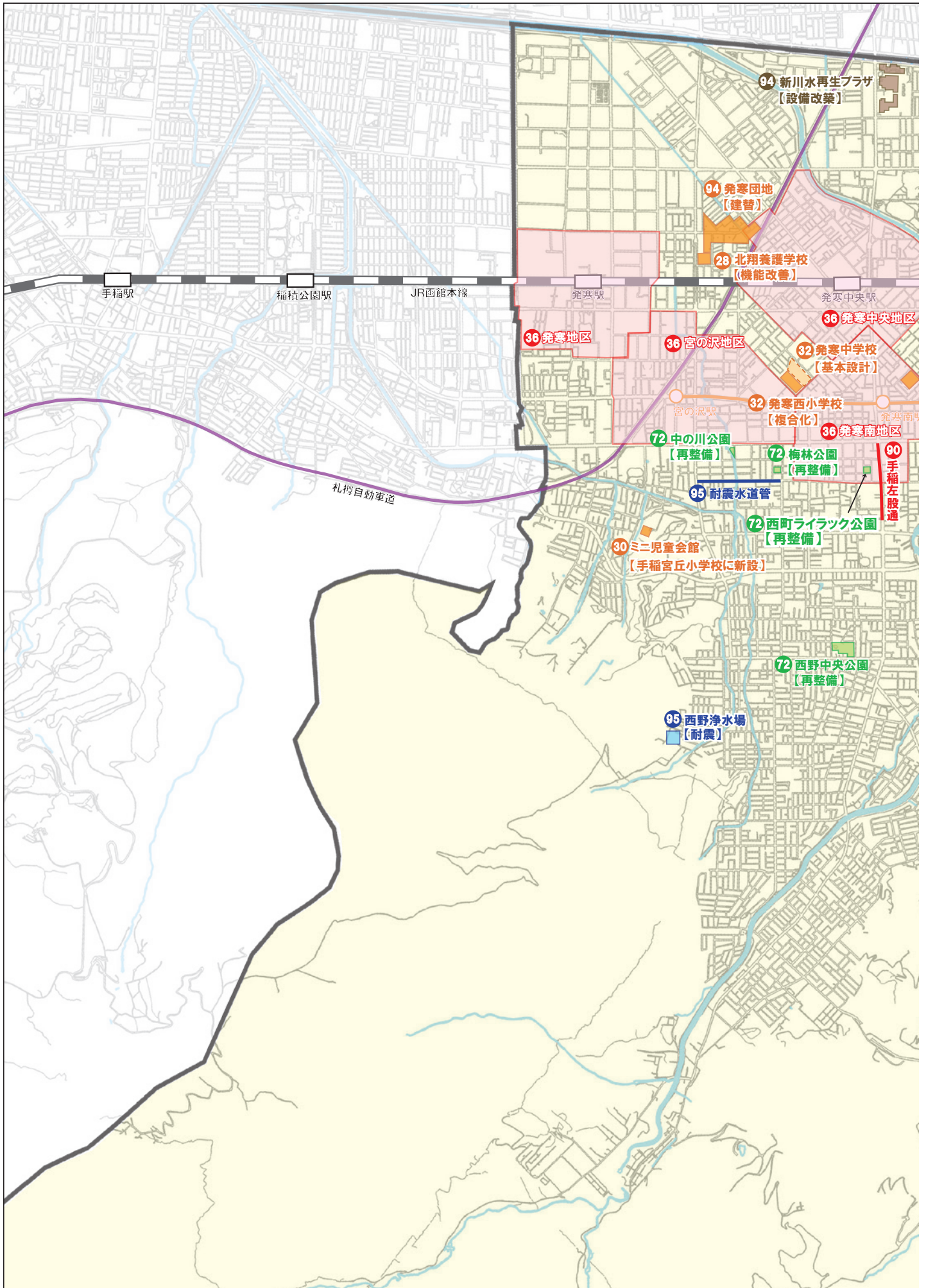
具体的には、「西区環境まちづくり協議会を中心とした環境活動の支援」、琴似発寒川の一斉清掃ややまめの稚魚放流など、区民や企業と共に行う環境に優しいまちづくりのほか、「西区文化フェスタ」「コトニジャズ」「コトニクラシック」を始めとした文化芸術を活かしたまちづくりも展開しています。

また、災害時の対応を円滑なものとするための「西区災害防止安全対策連絡会議」や、子育て活動をサポートする「子育て情報ステーション・さんかくやまべエのへや」の運営などを通じて、誰もが安心して健やかに暮らせるまちづくりにも取り組んでいます。

さらに、地域と共に進めるまちづくりの一つとして、二十四軒・手稲通（愛称：ラベンダー通り）では、沿道の住民・企業との協働によりラベンダーを植栽しています。

なお、区の環境キャラクター「さんかくやまべエ」は区のPRに活躍しており、区民から親しまれています。

| 事業名 | 事業内容・整備内容 | ページ |
|---------------------------|---|-----|
| 市立特別支援学校の教育内容等の拡充 | 小学部設置に伴う施設整備（北翔養護学校） | 28 |
| 「エコロコ!やまべエ誰でも体操」普及事業 | 西区の高齢者に介護予防の必要性を理解し実践してもらうため、区民と共に制作した札幌市初の介護予防体操「エコロコ!やまべエ誰でも体操」を高齢者を中心とした住民が主体となって広く普及します。 | 29 |
| 新型児童会館整備事業 | 学校改築に合わせ、新型児童会館を整備（4校） | 30 |
| 放課後児童クラブの過密化解消事業 | ミニ児童会館を新設（手稲宮丘小） | 30 |
| 区保育・子育て支援センター整備事業（厚別区・西区） | 合築している市営住宅二十四軒団地の建替に合わせて、西区保育・子育て支援センターを改築整備 | 31 |
| 学校施設改築事業 | 老朽化した学校施設の改築 （発寒西小、発寒南小、二十四軒小、山の手小、発寒中） | 32 |
| 安全・安心な道路環境の整備事業 | 歩道のバリアフリー化（二十四軒地区ほか5地区） 事故危険箇所対策（琴似停車場線ほか2カ所） | 36 |
| 小学校併設地域交流施設設置事業 | 小学校併設地域交流施設の設置（4校） | 37 |
| エコまち西区推進事業 | 住民による環境活動が定着・継続・発展するまち（通称「エコまち」）を実現するため、区民協議会 ⁴⁴ である「西区環境まちづくり協議会」の活動を支援します。 | 41 |
| 地下鉄宮の沢駅地区にぎわい促進事業 | 地域交流拠点である宮の沢駅周辺のさらなる活性化を図るため、まちづくり計画を策定するとともに、市内有数の観光施設である「白い恋人パーク」周辺の通りや駅周辺の諸整備を実施し、宮の沢駅周辺のにぎわいを促進します。 | 48 |
| 地域と創る公園機能再編・再整備事業 | 身近な公園の再整備（近隣公園 2カ所、街区公園 5カ所） | 72 |
| 骨格道路網等整備事業 | 手稲左股通 | 90 |
| 下水道施設再構築事業 | 下水道施設の設備改築（新川水再生プラザ） | 94 |
| 市営住宅維持更新事業 | 発寒団地、二十四軒団地の建て替え | 94 |
| 水道施設耐震化事業 | 西野浄水場の耐震化 | 95 |
| 配水管耐震化事業 | 配水幹線の連続耐震化（西幹線、下手稲幹線） | 95 |





西 区

概況

| 項目 | 全市 | 西区 | 全市に占める割合 (%) | 調査時点 |
|----|----|----|--------------|------|
|----|----|----|--------------|------|

区域面積

| | | | | |
|------------------------------|----------|-------|------|----------|
| ● 行政区域面積 (km ²) | 1,121.26 | 75.10 | 6.7 | H26.10.1 |
| ● 市街化区域面積 (km ²) | 250.17 | 25.19 | 10.1 | H26.10.1 |

人口・世帯数

| | | | | |
|------------------------|-----------|---------|------|----------|
| ● 人口 (人) | 1,942,648 | 212,322 | 10.9 | H26.10.1 |
| ● 市街化区域内人口密度 (人/ha) | 75.5 | 83.5 | - | H22.10.1 |
| ● 世帯数 (世帯) | 932,974 | 99,834 | 10.7 | H26.10.1 |
| ● 住宅に住む一般世帯数 (世帯) | 879,156 | 95,712 | 10.9 | H22.10.1 |
| ● 持ち家 (世帯) | 425,249 | 49,271 | 11.6 | H22.10.1 |
| ● 民営の借家 (世帯) | 376,805 | 38,972 | 10.3 | H22.10.1 |
| ● 公営・都市再生機構・公社の借家 (世帯) | 38,314 | 2,304 | 6.0 | H22.10.1 |
| ● その他 (世帯) | 38,788 | 5,165 | 13.3 | H22.10.1 |

就業者数・事業所数

| | | | | |
|-------------|---------|--------|------|----------|
| ● 就業者数 (人) | 861,037 | 96,641 | 11.2 | H22.10.1 |
| ● 第1次産業 (人) | 3,534 | 331 | 9.4 | H22.10.1 |
| ● 第2次産業 (人) | 118,904 | 13,944 | 11.7 | H22.10.1 |
| ● 第3次産業 (人) | 658,853 | 72,647 | 11.0 | H22.10.1 |
| ● 分類不能 (人) | 79,746 | 9,719 | 12.2 | H22.10.1 |
| ● 事業所数 | 76,604 | 7,062 | 9.2 | H26.7.1 |
| ● 第1次産業 | 105 | 8 | 7.6 | H26.7.1 |
| ● 第2次産業 | 9,321 | 998 | 10.7 | H26.7.1 |
| ● 第3次産業 | 67,178 | 6,056 | 9.0 | H26.7.1 |

地図の凡例

- 道路(施設)整備
- 歩道バリアフリー整備
- 河川整備
- 下水道(施設)整備
- 公園整備
- 水道(施設)整備
- 施設整備

※点線は整備に関する検討事業です
 検討の結果整備箇所は変更する可能性があります

地図の見方

